
METAL GEAR SOLID RISING

ジェフティ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

METAL GEAR SOLID RISING

【Nコード】

N4304Z

【作者名】

ジェフティ

【あらすじ】

メタルギアソリッド2、ビッグ・シエル事件から数年後。S3計画の被験体として事件に巻き込まれた雷電はその後、愛国者達に拘束された。

度重なる人体実験の最中、彼に一人の女性が手を差し伸べる。

ビッグママ、かつてEVAと呼ばれた女性。

愛国者達により、全てを奪われた雷電は、オルガとの約束を果たすべく、再び戦地へと赴く。

METAL GEAR SOLIDの二次創作です。かなりのスロ
ーペースになるかもしれませんが。

Prolog(前書き)

メタルギアソリッド2、メタルギアソリッド4の内容が理解できているとより一層楽しめると思います。
それでは、どごご。

Prolog

少年は根っからの兵士だった。

彼のいる場所に漂うのは戦の香り。

ガンパウダーの香りが染み付いた衣服をまとい、血塗られた土の上を駆ける。

彼にはそれが何のためなのかは分からない。でも、そうしなければ自分は殺される。だから殺すのだ。

コピー品のカラシニコフのトリガーを引く。途端、眼前の男は頭から血を吹き出して倒れる。当然のことだが、彼にはそれが酷く面白く見えた。

そうして人を殺していく。ゲーム感覚で。

悲鳴が戦場に満ち溢れて、彼の耳に響いていく。それが何とも心地よかった。

目を覚ます。

乱れている息を必死で整え、状況を整理する。

彼がいるのはベッドの上。薄いタオルケットを放り投げてベッドへと座る。

またこの夢か、と彼はうなだれる。

ジャック・ザ・リッパー、切り裂きジャックと呼ばれた少年は、雷電と名を変えた。それでもふとした時に過去の自分が現れる。

純真無垢だったが故に、殺しに何の嫌悪感も抱かなかった自分。それが怖かった。

今からまだ2年ほど前に起きたビッグ・シエル事件。そこで彼は、少年兵として彼を仕立て上げた張本人である男、ソリダス・スネークと再会した。そして、今まで忘れていた忌まわしき過去を思い出

したのだ。

ローズ・マリー……自身の恋人であり、良き理解者である彼女には、酷いことをしてしまつたと雷電は思った。そうして恐怖から逃げた結果がこれだ。

「被験体04、雷電を今すぐ連れてきなさい！」
女の声。

その声は悲鳴と共に反響した。

「やめてくれ」「殺さないでくれ」「命だけは助けてくれ」
そういった悲鳴の中、雷電は呼ばれる。

そうして彼は渋々、薄暗い部屋を出た。

光源の強いライトが、雷電の顔を照らす。雷電はそれに堪らず目を瞑つた。

「ふむ、やはり貴方が一番の出来ね」

白衣姿の女が言う。まるで挑発するかのように。

「お前は、俺をどうする気だ？」

雷電は問う。

「決まつてるわ、S3計画を再びやり直す。私はそのために愛国者達に入れられたんですもの」

雷電は黙って女の顔を見る。

隈が色濃く残つたその顔。そしてそれをむりやりに隠そうとしている化粧が逆効果を起こし、彼女を怪しく見せる。

彼女はストレンジプリファレンス。この薄汚い研究所で彼女はそう呼ばれている。

異常な趣味。その意味を持つ名前の通り、彼女は狂っている。現に雷電の体がそうだろう。

もはや人間とは呼べないその体。ロボットと呼んだ方がしっくりくるのではないか、などと思うほどだ。

狂気のマッドサイエンティスト、とは彼女のような人間の事を言う

のだろう。と雷電は半ば呆れながら彼女を見ていた。

「なに？その反抗的な目は？」

ストレンジプリファレンス、彼女は雷電の顎を持つと、それを持ち上げる。

「いや、なんでもない。それよりお得意の実験を始めたらどうだ？」

「そうね……そうしましょうか」

すると彼女は、工具箱のようなものを取り出す。ペンチにドライバー、ニッパーにドリル。もはや拷問とも言えよう。

「さて……はじめましょうか？」

彼女はニタリ、と笑みを浮かべ、舌なめずりをしてみせた。

体の節々が痛む。機械の体といえども、あちこちいじられればそれは痛いものだ。

雷電は愛国者達の傘下であるPMCの兵士に独房へ入れられると、窓から外を眺めた。とはいっても眺めるほどの大きさの窓ではない。そういえば、ローズと一緒に見た脱走映画では、こういった窓から脱出したり、穴を掘ったりして脱出していたな、と雷電は思い出す。しかし、この愛国者達の牢獄ではそうはいかない。ナノマシンによって完全に位置情報を把握され、センサー類が脱走者を感知する。雷電は、ローズ、そしてオルガに申し訳なく思った。ビッグ・シエル事件で子供を助けると約束したはずが、今ではどうしようもない。果てはローズに対しては、数多くの心配をさせた拳句、このように逃げ出した。

頭を抱えることしか無い。

”今の俺に何が出来るんだ？”

雷電は深く考え込んだ。

途端、彼は頬に熱気を感じた。思わず目をつむり、それから目を背ける。

「貴方が雷電？」

誰かが聞いた。

「アంతは……」

視界の先、雷電が振り向いた先からは光が差し込んでいた。そしてその光の中、ほこりが舞い散る中に女がいる。

「私がママ……ビッグママよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4304z/>

METAL GEAR SOLID RISING

2011年12月14日22時46分発行